

# 仙台教区報

発行所 カトリック仙台司教区事務所  
 980 仙台市本町一丁目2番12号  
 電話 〇二二二-2217・七三七一番  
 編集・発行人 首藤 正義

## 集まろう

### ―あと三か月に迫った教区大会―

「仙台司教区」となつてから五十年、その節目を記念する教区大会まであと三か月余となつた。大会開催年度である今年に入り、特に実行委員会から宿泊関係資料が各教会に配られて宿泊申し込み受け付けが始まり、又、それと並行して分担金納付の依頼が発表されて以来、大会に向かう教区全体の盛り上がりが見え、然高まつてきた。予備調査(まだ全教会からの回答ではない)に見る参加予定者数も大会企画委員会が打ち出した予定数の既に三分の二(千人)に達しようとしており、青森県から福島県までわれら教区は一つ、という熱気溢

### 仙台司教区50周年記念

### 「仙台教区大会」

メインテーマ

「明日の教会を

めざして」

期日：昭和61年9月14日(日)・15日(月)  
 場所：仙台白百合学園



れる大会となることが十分期待される。それはまさに、大会のテーマである「明日の教会をめざして」の教区の活力を体験し合う場となろう。県ごとのレベルでも得られないこの機会をのがすのは大きな損失であり、より多くの方々に参加を呼びかけたい。実行委員会では参加者名簿の作成を計画しそれを七月末としているので参加申し込みはまだ間に合う。

参加者数による盛り上がり、「一つ」という体験もさりながら、大会の柱である講演とパネルディスカッションから得られるものこそ皆で享受したい。第一日目の講師はG・フォス師、教育者の立場から親子・夫婦・青少年の問題を通して家庭のあるべき姿について説かれる。第二日目の講師はA・コレン師、聖書に基づいて信仰の面から現代の家庭に深い示唆を与えられる。是非とも多くの方に聴いてほしい。パネルディスカッションでは各地区からの代表者と司祭・修道者がパネラーとなり、家庭に関連するそれぞれの地区での活動や問題、意見等を発表して討論に移る。内容

は身近な事柄であり、興味深く参加できる。大会のもう一つの柱であるミサ聖祭に關してであるが、遠方から大会に参加するならば(9月14日)のミサに与る時間がない、という声があつた。しかしこれについて、去る3月の司祭評議会において、「大会の9月14日、15日を一つの主日と考える。従つて大会に参加し、そのミサ(15日)に与ることが主日のつとめを果たすことになるので、できるだけ参加するように」と確認されているから懸念はいらない。

あと三か月、この大会を明日をめざす教区の大らかな踏み台とするために、企画委員会の見積つた数をさえしのぐほどの参加が得られるよう念願して、改めて呼びかける次第である。教区大会に集まろう！ (平賀 徹夫)

### 司教様の日程

(5月23日現在)



- 6月5日 カリタス・ジャパン(東京)
- 6日 宮城県宗教法法人代表者会議(仙台)
- 8日 仙台ローザリオ会
- 9~14日 司教会議(東京)
- 16~18日 カトリック老人福祉全国大会 (長崎)
- 19日 カリタス・ジャパン(東京)
- 23~25日 教区司祭大会(仙台)
- 29日 聖ペトロ・パウロ祭日IIカテドラル献堂記念日(元寺小路)
- 7月3日 カリタス・ジャパン(東京)
- 4~5日 カトリック児童施設協・保育施設協合同全国会議(東京)

修道女である私は  
福音の証しとなってきたか

— 福音宣教研修会 —

去る5月25日、仙台戦災復興記念館において、日本女子修道会管区長総長会の企画による研修会が開かれ、標題のテーマのもとに、東北各地から160名以上の修道女が参加し、熱心に研修した。女子修道会は一九八二年以来「日本における宣教活動のあり方」について模索を続けてきたが、一九八四年司教団から発表された「基本方針と優先課題」に基づいて、教会の動きに如何に協力していくか、など課題の解決をはかるうとの動きが管区長総長会の全国レベルの企画となり、仙台教区修道女連への呼びかけが今回の研修会の実現となった。

午前の部では、佐藤司教、首藤師、新村信雄氏（八木山）、佐藤則子氏（元寺小路）からそれぞれ修道女のイメージ、問題点など忌憚のない提言があり、修道女の立場からSr今泉（コングレガシオン・ド・ノートルダム）からの発言があり、討論が行われた。

午後の部では、4人の修道女のパネラーが福音宣教師として行きつ戻りつとそれをのりこえた体験、今後の宣教への決意などを発表し、参加者を混じえて活発な意見交換が行われた。司牧者、一般信徒、修道女が一体となり、日本における福音宣教を行うとき、修道女としての多くの課題があること、また相互の立場の理解を深めたことなど多くの収穫を得て

それぞれ帰路についた。

三位一体の交わりの中に生きるよろこびをかみしめながら……

聖母訪問会のシスター

ご苦労さまでした



昭和55年4月1日から、教区の要請により角田教会を手伝っていた聖母訪問会の二人のシスターは、去る3月31日、契約期間を満了して角田から引き上げられた。

Sr岡井益美は幼稚園の主任、教会学校など、Sr大石こうは、常任司祭のいない教会の必要をすべておぎなうて下さり、お二人の働きにより、教会も、幼稚園も大いに充実し、発展した。6年間の仙台教区への奉仕を心から感謝し、お二人の新しい任務の上に神様の豊かな祝福を祈りたい。

聖体奉仕者任命式行なわる

— 元寺小路教会 —

元寺小路教会では去る3月29日、午後7時からの復活徹夜祭のミサ中、佐藤司教により、次の方々を聖体奉仕者に任命された。

- 青山龍雄氏 青山理恵氏 阿部恵子氏
- 神田香苗氏 佐藤艶香氏 佐藤政信氏
- 渋谷鈴子氏 武田恒彦氏 山下増恵氏

聖体奉仕者の役割は、ミサ中や病人訪問に際して聖体を授けるなどである。又、一昨年（59年）の6月に花巻教会で佐藤司教により、カテキスタが宣教奉仕者に任命されたが、両者とも、新教会法二二〇条による一般信徒も

教会の種々の奉仕に参加できることに基をおく。司祭が不在の場合、「みことばの祭儀」を司式し、ご聖体を授け、説教をするなどの役割があり、これからの働きが期待される。

盛会裡に

米川キリシタンまつり



去る5月18日(日)、五月晴れの風かおる三経塚、殉教の丘に、函館からの50名をはじめ、青森、岩手、宮城、東京等から約300名の巡礼者を迎えて、「米川キリシタンまつり」が盛大に行なわれた。

聖歌が流れる新緑の丘を十字架を先頭に行列して登った三経塚では、沼倉良之先生による「米川キリシタン」の講話、6名の司祭による野外ミサで敬けんな一ときをすごした。

ミサ後、親和会館（綱木公民館）での交流会では、東和町の及川哲夫町長の挨拶をはじめ、仙台の「教会音楽の集い」による合唱と器楽演奏、地元綱木老社会の有志の踊り等があり、盛会裡に終了した。米川の主任司祭高橋師は、「これからはキリシタンまつりをみんなのお祭になるようにつとめたい」と語っていた。

カテドラル建設答申書提出

司教総代理 斎藤 石雄

皆様の意見を纏めるため発足した建設準備会は、全ての作業を終え、4月19日に、答申書として司教様に提出しました。準備会の皆様のご苦勞に感謝するとともに、今後これを叩台とし、司教様を中心に、何らかの計画が推進されることを期待します。ご報告まで。

192  
センチからの日本の眺め(6)

日本は好きですか

村首ステファノ

日本に来て、すでに30年が過ぎてしまった。

『村首神父さん、日本は好きですか』と時々聞かれることがある。そのような時、どのように返事したらいいのか、非常に困ります。どうしてか? ちょっと年配の方に聞かれた時には、返事をしないで逆に質問をします『お宅は結婚して30年近いんじゃないですか。奥さんが好きですか』と。こう質問されるとひとは普通ただ笑うだけです。ツーリストとして、ある国に行った時は、ちょっと無責任でだけれど、気に入った、好きである、又、あまり好きでないなど、わりあい簡単に言えるものです。ところが、30年間、ある一つの国で皆と一緒に生活した場合、好き嫌いの問題ではなくなる訳です。

結婚を例に考えると、夫にとって妻は好き嫌いの問題ではなく『ウチの女房ウチの奥さん』になり、夫が今の自分になったのはこれも妻のお陰である。夫は妻を全く自分から切り離して外からみるのもう不可能である。なぜなら、妻は夫にとって自分のある部分になったのだから。こんなふうに、今、日本は私のある部分になってしまっている。上手に説明できないが、このように考える訳です。

先日、高校生の集まりを指導したというシスターの話聞いた。テーマは「自分を知らず、自分の持っている特長、少なくともこの

ような面に関しては自信があるという良い面により目を向け、成長させるようにするならば、欠点や悪い面は次第に小さく少なくなる。」これは確かにその通りである。個人の場合、このような事が必要である。それをもう少し広げて、国の場合はどうだろうか。

『日本は、このような良いものを持つている。他の国もこの点に関して、私達を倣うべきだ』といえるものについて考えてみることは大切なことではないだろうか。

例えば、ローマ帝国はいろいろな悪い面もあったが、ローマ法を持ち、これを大切にし、ローマ帝国という大きな組織は、その法律に基づいていた。今日、全世界に法律があるのは、ある意味で、このローマ帝国のお陰である。

ところで、これに匹敵するような日本の世界に誇れる良いところは、戦争放棄を謳った憲法第9条であると私は考える。ところが今、「日本はけしからん、自分を守る武器を買わないのは」と言われている。しかし、今こそ、「アメリカもソ連も、日本を倣って、武器をもって問題解決をするのを止めるべきだ」と、声を大にして語る必要がある。

ただ、このように考える日本人は少ないような気がする。もつと、「日本がこの40年間、このように成長したのは、この根本的な姿勢によるものだから、自信をもって、これを今後も続けたい」と言うべきだろう。そして、「他の国も戦争を無くしたいと思えば、人を殺す道具を無くせばいいのではないか」と。



一昨年、司教団が「基本方針と優先課題」を発表して以来、各地の教会で「小さな人々」がクローズアップされ始めた。

そして、「小さな人々」とは誰か? 私たちは何が出来るか、が発問に問われ、様々な活動が展開しはじめた。結構なことである。

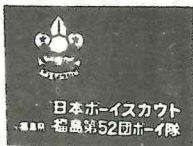
しかし、その時私たち自身の姿勢はどれだけ問われただろうか。最近読んだ新聞記事は大いにそれを考えさせてくれた。「世の中には不自由な生活を強いられる方がたくさんいます。交通事故で足が不自由になってしまった方、胎児のときの薬害で、先天的に目が不自由な方などがいますが、健常者はこのような方を「かわいそうに」という気持ちで接してはいけません。憐みのこもつた手を差し伸べても、全く無意味です。健常者は常に『ごめんなさい』という気持ちで接しなければいけません」。つまり交通事故に遭った人がいたから、信号機が取り付けられ、薬害を背負って生まれた幼児がいたから、薬の安全性が改めて調べられる。私たちの健康は、不自由な生活を送っている人たちの上に成りたっているのかも知れない。「ごめんなさい」の心を持つているだろうか?!

(狼河原)

スカウトは

いま

会津若松教会



ボーイスカウト福島第五十二団について  
私達の団は、昭和42年に会津若松カトリック教会を育成団体として発足した福島県で五十番目のボーイスカウトの団です。

当初はザベリオ学園の男子児童生徒を主体としての活動でしたが、現在は会津若松市内の公立小中学校8校にわたり、小学三〜五年生のカプスカウト隊30名、小学六年〜中学生のボーイスカウト隊25名、合計55名のスカウトで構成されています。

「三つの誓い」を実践しながら、夏のキャンプを中心に、春、秋は登山、オーバーナイトハイク、市内史跡めぐり、冬はユニセフ募金、クリスマスミサ参加、スキー訓練等、年間を通して活動をしています。

夏のキャンプは親元を離れ、自分達の手でテントを張り、食事をつくりながら、大自然とふれあい、自然の恵みに感謝する心を養い、集団生活の中で規律の大切さを学びとっています。

秋のオーバーナイトハイクは、小学五年生以上を対象に、約30キロの夜道を8時間位かけて歩きます。特にこのハイクは睡魔と、肉体的疲労との闘いであり、チームワークを特に必要とします。

冬の野外活動としてのスキー訓練、全世界の恵まれない子供達を助け、力づけるためにユニセフの街頭募金等も団の年間行事の一つです。

冬の会津での街頭募金は、カブ、ボーイスカウト達にとつてつらい事ですが、全員が毎日元気に参加しています。育成団体であるカトリック教会のクリスマスミサにも参列し、感謝の心、思いやりの心を養っています。尚、リーダーに、教会の信者でもある賀川団委員長、教会主任司祭のハイメ神父他、男女14名が誠意をもって奉仕しています。

最後にありますが、ボーイスカウトの三つのちかいを述べます。

- 一、神と国とに誠をつくし、掟を守ります。
- 二、いつも他の人々を助けます。
- 三、からだを強くし、心をすこやかに、徳を養います。

彌栄。

教会学校

リーダー研修会



日時 6月21日(出)pm6時〜22日(日)pm4時  
 場所 東仙台・光ヶ丘研修所  
 講師 山浦玄嗣先生(大船渡在住・医師)  
 テーマ 「東北人としてのキリスト様」  
 会費 仙台地区以外の方、五〇〇円  
 持参品 シーツ2枚・枕カバー・洗面用具・筆記用具・聖書  
 連絡先 983 仙台市木ノ下一―25―125  
 聖ウルスラ修道院 Sr小川  
 Tel 0222215710339

前橋難民センター援助と

「抽選券」のこと



「2000円の愛をください」というポスターをごらんになりましたか。死ぬ思いをして海をわたり、やっと日本に着いて前橋の難民センターに落ち着いた方たち、その子供たちが高校に行かれるよう援助するための運動です。抽選券は一枚200円、タバコやケーキ1個分ほどのお金です。自分でお金を出して買うのはある意味で簡単ですが、まわりの人たちに呼びかけて協力してもらえたらもっとすばらしいのではないのでしょうか。

抽選は十月です。当った人は券と引き換えに賞品をもらうのですが、仙台教区からは郵便で当選券を送ってもいいそうです(一等賞の自動車は別)。宅配便で賞品を送ってくれるそうですから、教会単位で当り券を送ったらいと思います。

この援助へのご協力をお願いします。(平)

【編集後記】

新緑が目に見え鮮やかな季節です。4月初め、青森の一読者から丁寧な意見をいただきました。感謝。意見は教区報98号に関するもので、①教区報の性格②書類送検という表現について。①に関して。教区報は仙台教区としての公式見解ではありません。署名、無署名にかかわらず、記事に関する最終責任は編集・発行人に帰するものです。②に関して。昨年12月15日付の朝日新聞でも「押捺拒み書類送検」と報道され、「書類送検」されたことは、国民一般に知られるところです。(首)